

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	554 緑化推進経費(庭木の整枝・剪定講習会)	会計	01	一般会計
		款	08	土木費
		項	04	都市計画費
		目	05	公園費
基本 施策	28 緑化を進め、公園や緑地を整備する	細目	384	緑化推進経費
		細々目	01	緑化推進経費
行革大綱の重点事項番号				
担当部署	コード	190700		担当者 氏名
	名称	産業建設部都市計画課		
		連絡先	43 - 2314	(内線)

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	樹木への親しみを深め、緑化を推進するため、庭木づくりに関心のある市民 ※対象件数		
成果(どうする)	手入れの行き届いた樹木が植栽された庭や公園が増え、景観が向上する。		
根拠法令・要綱等			
開始年度	平成	年度	関連事業
終了年度	平成	年度	
H21 事業 内容	庭木の整枝・剪定講習会		
社会情勢 の変化等			

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
			庭木の整枝・剪定講習会	回	目標 1 実績 1	目標 1 実績 1

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
				伊賀市民の参加者数	市域から満遍なく参加者がいることを良とする。	人	目標 70 実績 45

投入コスト	H20 決算		H21 決算		H22 当初予算		H23 当初要求	
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
直接事業費計(A)	69	69	69	69	69	69	69	
Aの 財源 内訳								
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他	0	0						
一般財源	69	69	69	69	69	69	69	
事業投入人件費(B)	0.0人	144	0.0人	144	0.0人	144	0.0人	144
フルコスト(A)+(B)	213	213	213	213	213	213	213	

事務事業の評価(Check)

	判断の基準(該当項目に○をつけてください)	備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	○
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
効果性	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	○
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
効率性	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	○
	事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業	
	【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】	
	財政状況を考慮し、事業を休止した場合、市民生活への影響が大きい事業	
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高	○
達成度	当初設定した計画を 60%以上80%未満 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】	
予算の繰越の有無	無	
【予算の繰越がある場合、繰越の種別】		
他の事業主体の活用、事業移管が可能である。		
基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。		
【事業名】		
受益者負担を求めることができる事業である。		
全体コストにおける負担構成は適正である。		
コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。		

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	旧町村での実施も含め市域全域への普及について検討
【状況】	計画のとおり進んでいる
【詳細】	
昨年度の取組状況	計画通り1回の講習会の開催できたが、目標人数の参加には至らなかった。また、旧町村での実施を検討したが、講師となる者を手配するに至らなかった。

今後の方向性(Action)

評価者氏名(担当課長)	清水 仁敏
【方向性】	現状維持
【理由】	
事業の方向性	緑豊かな環境、綺麗な街並み環境の維持には、継続的な取り組みが必要である。
現時点における課題、その他	市域全域への拡がりを進める上で、旧町村での順次開催を引き続き検討する必要がある。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	講師の手配等具体的な対応を進める。また、現行予算の範囲内で開催回数を増やせないか検討する。